



(標題：中野雄一 元病院長)

病 院 長 挨 拶

新潟大学医歯学総合病院

病院長 富田 善彦



4月に就任しまして、9ヶ月が過ぎました。病院長の富田です。

いきなり、硬いことを申し上げますが、本院の理念、目標は「高度で安心安全な質の高い医療サービスを提供するとともに、医療人を育成する」ことであり、その実践のためには、わたくしの任期の3年がいろいろな意味で本院の大切な時期であると考えております。

目標の中には病院運営の適正化と効率化を促進することもあります。現状分析を行った結果、まず、病院財政の健全化が必要であると考えました。病院機能を維持、発展させるためには原資が必要で、これを自ら確保する、強い基盤を構築する必要があります。また、優秀な人材確保も大切ですが、そのためには待遇を含めた、仕事をする環境の整備が必要です。働き方改革に沿った対応とともに、勤務体制の整備が喫緊の課題と考え、最も力をいれて取り組んでまいりました。さらにこれらの改善を推進するためにはシステム自体の機構改革を同時に進める必要がありましたので、運営体制整備も併せて行ってきております。

もちろん、本院の目標にある「患者さん本位の医療」も大切なコンセプトであり、これを実践するための業務改善は、11月に実施した病院機能評価を通してかなり進んだものと思います。

今後とも、職員一丸となって、頑張っていきたい、と思います。どうぞよろしくお願いいたします。



● 本院の理念・目標 ●

◆ 理 念 ◆

生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、
人間性豊かな医療人を育成します

◆ 目 標 ◆

患者本位の安全で安心できる医療を提供します
豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
病院運営の適正化と効率化を促進します



医療人の育成を推進しています

総合臨床研修センター

本院は、医師養成機関として、良医育成のために高度先進医療から地域医療まで多くの症例が経験できる環境を整備しています。

医師が診療に従事するためには、医師国家試験合格後に研修医として2年以上の臨床研修が義務付けられていますが、本院の臨床研修プログラムは、本院と県内外の関連施設で研修をし、あらゆる症例に対応可能な内容となっており、多くの指導陣の下で基礎からスキル面まで学べる充実した研修となっています。

また、平成30年4月にスタートした新専門医制度に基づき、臨床研修を終えた医師がスムーズに専門研修に移行できるよう、本院では19基本診療領域全ての専門研修プログラムを立ち上げ、様々な領域の専門性の高い医療が経験でき、専門医へのキャリア形成につなげる体制を構築しています。

看護部

看護部では、「患者さまひとりひとりを尊重し、心をこめて、質の高い看護を提供する」という看護部理念に基づいた看護を提供するため、「RICCA キャリア開発プログラム」を展開しています。このプログラムでは、採血など看護技術のトレーニングをはじめとした研修や指導者を育成する研修を行い、人材養成を進めています。

また、当看護部のプログラムは、平成29年度より、「新潟県キャリアアップ体制整備事業」として県内看護職員にも提供しています。臨床実践能力向上と教育担当者の育成を目的とした本事業は、新潟県内の看護職員が共に学び合う場となっています。



シミュレーターを用いた採血トレーニングの様子



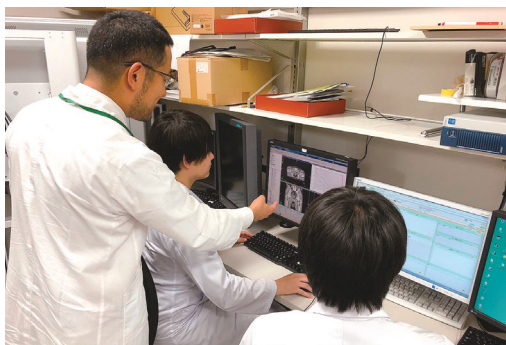
褥瘡指導者研修にて、体圧を確認している様子

放射線治療科

～『医学物理士』の稲穂を実らせる～

近年、「切らずに治す」放射線治療を受ける患者さんが増えています。その背景には放射線治療装置の進歩に加え、「放射線医療における物理学のプロ」である『医学物理士』が増えていることが挙げられます。当院では2015年より医学物理士レジデント養成コースを開設しました（国内では2施設）。黄金色に輝く新潟の稲穂のような“実りある”『医学物理士』が当院から1人でも多く育つよう、精力的に養成活動を行っています。高精度放射線治療が普及する今、本養成コースの医療への貢献度はますます高くなることが期待されています。

放射線治療科 棚邊哲史



高精度放射線治療計画の立案方法を学ぶ
医学物理士レジデントたち



強度変調放射線治療 IMRT の線量検証測定に
取り組む診療放射線技師と医学物理士・医学物理士
レジデント



病気の基礎知識

25

義歯診療科

「高齢者の口腔機能低下症の保険診療」

「食事中におせることが増えた」「薬が飲みにくくなった」「滑舌が悪くなった」「口の中が乾くようになった」…こんな自覚のある方、あるいはご家族にこんな方はいらっしゃるでしょうか。こうした症状は、「オーラルフレイル（お口の虚弱）」と呼ばれるもので、これまでは歳だから仕方がないと思われてきました。しかし、最近の研究で、「オーラルフレイル→食べる機能の低下→低栄養→サルコペニア、全身のフレイル」という流れをたどり、オーラルフレイルの人はそうでない人と比べ、4年間で約2.5倍寝たきり状態になりやすいことが分かっています。ただかか口のことで、そのままにしてはいけません。

2018年から保険診療に、「口腔機能低下症」という項目が追加されました。これはまさにオーラルフレイルの早期発見と重症化予防を目的にしたもので、表のような7つの検査項目のうち3つの項目で異常が認められた場合、当院の歯科では歯と歯ぐきの治療や入れ歯を作るだけでなく、口を元気にするためのトレーニングや指導と管理を総合的に行っていきます。オー

ラルフレイルの予防と改善は、まずご自身の状態を知ることが大切です。軽いオーラルフレイルであれば、毎食良く噛んで食べることを意識するだけでも口の機能は活性化します。健康で長生きするために、つい忘れがちな「口」にも関心を向けて頂ければ幸いです。

（義歯診療科 小野 高裕）

診断基準項目	診断の方法
1. 口腔衛生状態不良	舌に着いた汚れの量や口の中の菌の数を測ります。
2. 口腔乾燥	唾液がどれくらい出るかを測ります。
3. 咬合力低下	歯の残っている数や噛みしめる力を測ります。
4. 舌口唇運動機能低下	「パ」「タ」「カ」を何回発声出来るかを測ります。
5. 低舌圧	舌を上あごに押し付ける力を測ります。
6. 咀嚼機能低下	食べ物をどれくらい細かく噛み碎けるかを測ります。
7. 嚥下機能低下	飲み込むことに関するアンケートに答えてもらいます。



CTRC

臨床研究推進センターは新しい治療の開発を支援しています



みなさまが病院で受けておられる治療はどのようにしてできてきたのでしょうか？

新しい治療法や薬が開発される時には、それがどのような病状の患者さんにどの程度役立つのか、また、安全性に問題はないかなどを患者さんにご協力いただきながら確かめる「臨床研究」が行われます。臨床研究は「観察研究」と「臨床試験（介入研究）」に大きく分けます。臨床試験の中でも新薬や新しい医療機器の製造承認を得るために行う試験のことを「治験」といいます。

臨床研究は人を対象としていますので、法律や基準で患者さんの人権保護、記録などの保存などが定められています。また、治験審査委員会や各種の倫理委員会の承認を経て研究は行われています。

臨床研究推進センターは、これらの臨床研究が安全にかつ適切に行われるように研究者や依頼する製薬企業を支援することとともに、臨床研究に参加される患者さんの支援を行っています。今後も院内院外の方々と連携し、患者さんのもとに新しい治療を届けるために努めて参ります。

臨床研究

観察研究

臨床試験
(介入研究)

治験

デジタルサイネージのコンテンツを作成しました



平成 29 年 6 月以来、外来診療棟エントランス階の待合ホールに、本学の卒業生である 柳本 雄司 様からいただいたご寄附により、病院運営へのご支援、特に待合室の充実を目的として導入し、「NHK 空中散歩」をメインとした環境映像を上映しております。

この度、平成 30 年 12 月より、当院独自のコンテンツとして「診療科等の案内」「当院の施設の案内」等のコンテンツを作成し放映を開始しております。

今後も様々な情報を追加し、発信していく予定です。待合ホールにお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

「ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた」について

難病と闘うお子さんの治療が地元の病院では難しい場合、ご家族は自宅と入院先との二重生活による経済的な負担や、家族がはなればなれで暮らす精神的苦痛に悩まされています。ご家族が付き添うことで、入院中のお子さんの治癒力が高まるといわれていますが、遠くはなれた病院にご家族の滞在場所はないのが現状です。

「ドナルド・マクドナルド・ハウス」は、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンにより設置・運営されている、病気の子供とその家族が安価で利用できる滞在施設です。

この度、新潟大学医歯学総合病院では、日本海側では初、日本で 12 番目となる小児医療宿泊施設「ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた」を 2022 年 4 月に新潟大学の病院地区構内に建設する予定です。



ドナルド・マクドナルド・ハウス なごやハウスのベッドルーム

しかしながら、ハウス建設資金の調達が未だ十分ではないことから、この度、募金活動をさせていただくこととなりました。ぜひ、この趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、募金の詳細については、本院に設置してある募金趣意書をご参照いただくか、下記の URL または QR コードから本学ホームページをご参照ください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/dmh-niigata/>



本学の永橋講師が日本医師会医学研究奨励賞を受賞しました

消化器外科 永橋 昌幸

研究課題：治療難治性癌に対する脂質メディエーター標的治療の可能性の探索

このたび平成30年度日本医師会医学研究奨励賞を受賞しとても光栄です。私は消化器・一般外科に所属し、乳がんや消化器がんの患者さんに対する診療として、手術や化学療法などの治療を主に担当させていただいております。

がんの主な原因は遺伝子の異常であることが分かってきました。遺伝子というのは、私たちの体を形作っている細胞の設計図となる情報が入っています。この遺伝子に異常が生じてしまうことによって、体の一部の細胞が「がん」になってしまうと考えられています。近年、次世代シーケンサーという高度な技術が登場したことによって、遺伝子を網羅的に調べることができるようになりました。多くの種類のがんにおいて原因となる遺伝子の異常が明らかとなり、新しいがんの治療薬の開発が進んでいます。しかし、がんの中には、このような最新技術を用いても遺伝子の異常が見つからず、原因が分からないがんも存在しています。化学療法や分子標的薬が効きにくい難治性のがんの中には、このような遺伝子異常が見つからないがんが含まれており、さらなる原因究明が求められています。

今回私たちは、脂質メディエーターという生理活性物質に注目し、原因不明のがんのメカニズムの一部を解明したいと考えています。脂質メディエーターは、がんの発育や増殖、転移を促進することがこれまでの研究で分かってきました。最近、遺伝子異常が見つからない原因不明のがんの中には、脂質メディエーターが異常を起こしているものがあることが分かりました。従来の治療法がなかなか効かないような難治性のがんにおける脂質メディエーターの役割を明らかにすることで、新しい治療法の開発につながるよう研究を続けていきたいと考えております。

中央診療施設紹介 ②④

腫瘍センター

腫瘍センターは、がん診療をサポートする「通院治療室」「緩和ケアチーム」「がん相談支援センター」「がん登録室」の4つの部門から構成されています。

「通院治療室」は抗がん剤や免疫療法などのがんに関わる点滴治療を受ける場所です。がん診療の進歩に伴い、抗がん剤の副作用は各段に軽くなりました。以前は入院して行っていた抗がん剤治療も、今は外来通院で行う方が多くなってきています。通院治療室スタッフは、患者さんの安心・安全を第一に考え、がん治療を継続できるよう患者さんをサポートして参ります。

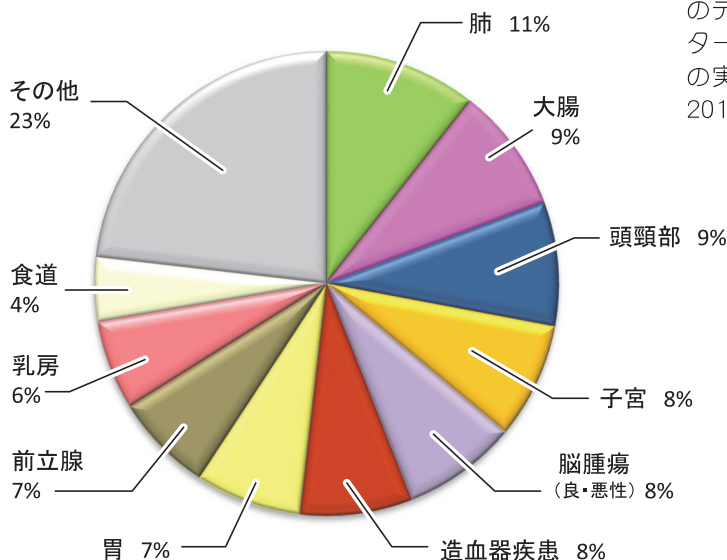
「緩和ケアチーム」ではがん患者さんの体、心の負担を取る治療を行っています。専門的な知識と経験を有したスタッフが揃っています。緩和ケアは終末期の方が受ける治療という印象があるかもしれませんが、がん治療の早期から緩和ケアを行うことで患者さんの元気が保たれ、抗がん剤治療などの効果が高くなることが分かっています。外来患者さんは緩和ケア外来、入院患者さんはベッドサイドでお話を伺います。緩和ケアをご希望の患者さん、ご家族は主治医の先生を通じてお申込みいただけます。遠慮なくご相談ください。

「がん相談支援センター」では患者さんの気持ちに寄り添った、療養上の相談を行っています。どんな質問でもお受けいたします。対応時間は10時～16時、電話番号025-227-0891です。事前にご連絡をいただくとスムーズにご相談いただけますのでよろしくお願いします。

「がん登録室」では、当院で診療されたがん患者さんのデータを集めています。これらデータは国立がんセンターで全国統計として活用されるほか、当院のがん診療の実態把握、がん診療の質の向上に繋がっています。2017年度の登録数は以下の通りです。

(腫瘍センター 副部長 渡部聡)

2017年度院内がん登録実績(部位別)



部 位	件 数
肺	272
大腸	223
頭頸部・喉頭・咽頭	222
子宮	207
脳腫瘍(良・悪性)	205
造血器疾患	200
胃	190
前立腺	176
乳房	160
食道	115
その他	594
合計	2,564

摂食嚥下セミナーのご案内

「食べる」ことは、単に生きるだけでなく、日々の生活の楽しみを保つためにも大切です。本院口腔リハビリテーション科では、摂食嚥下(食べること、飲みこむこと)や口腔の健康に関する勉強の場として、「摂食嚥下セミナー」を2015年から開催しています。摂食嚥下、介護食品・食器具、口腔乾燥症、味覚障害、栄養、口腔ケアなどをテーマにして、当院スタッフが講義や実習を行っています。これまでに、患者様やご家族、医療・介護従事者など、のべ600の方が参加されています。「おいしく、食事を楽しむ」ために、一緒に学んでみませんか？是非、ご参加ください。

場 所：新潟大学医歯学総合病院
アメニティーモール内研修室(LAWSON 向かい)
日 時：毎月第2、4週の火曜 13時～14時30分
対 象：どなたでもご参加いただけます
申 込：不要(先着50名)
参加費：無料
内 容：「摂食嚥下の仕組み」、「摂食嚥下訓練」、「介護食品、食器具」、「口腔乾燥症」、「味覚障害」、「栄養」、「口腔ケア」、「言語」など
スケジュールは、病院ホームページや院内掲示ポスターをご覧ください
問合先：口腔リハビリテーション科
伊藤 加代子 (025-227-2999)



病院運営支援のお願い

本院では、診療環境の充実やよりよい医療の研究・開発のため、民間企業や個人の篤志家の皆様から広く寄附金を受け入れる制度を設けております。

いただきました寄附金は、患者様に快適な療養生活を過ごしていただけるよう病院の環境整備、最新の医療機器の導入、地域医療を担う医療人の育成、医学教育・研究の充実、病院運営の改善などに使用させていただきます。

多くの方が本寄附金制度にご賛同いただきますようお願い申し上げます。

なお、寄附いただいた寄附金には、税制上の優遇措置があります。パンフレット(寄附申込み書)は、医事課窓口、入退院玄関及び病棟ナースステーションに用意しておりますのでぜひご覧ください。

バックナンバーは本院ホームページ(<https://www.nuh.niigata-u.ac.jp/about/koho.php/>)からご覧になれます。

新大病院たより「和」(第56号)

発行日／令和元年12月

発行者／新潟大学医歯学総合病院広報委員会

〒951-8520 新潟市中央区旭町通一番町754番地

(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2408まで)